

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500461		
法人名	ケアサブライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホームしばざくら		
所在地	群馬県 太田市 浜町 72-10		
自己評価作成日	令和6年7月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の入所する前の生活習慣をなるべく継続してもらえるように日々の生活の中で取り入れながらご自身のペースで過ごしていただけるようにしています。春から作り始めた野菜をみんなで収穫したりしています。楽しみや生きがいを見つけられるおな支援を考えていきたいと思ひます。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和6年8月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員同志の信頼関係・チームワークの良さが、利用者の一人一人に寄り添う支援や家族との協力関係に繋がっており、利用者・家族・職員にとって事業所が「安心できる場」になっている。「人の役に立ちたい。何かをして動いていたい。」という思いがある利用者には家事を手伝ってもらったり、野菜や花の手入れや閲覧板を隣家に届ける際に同行してもらうなど、行動を規制するのではなく、日常的に力を発揮してもらう場面作りをしている。また「干渉されたくない。」という思いがある利用者には必要以上の観察でストレスを与えないよう配慮している。利用者が安心して過ごせるよう家族には日々の状況を知らせ協力を職員は感謝し、支援に生かしている。利用者それぞれの力量を生かし、手縫いで仕上げた雑巾やカレンダーを活用し、はさみを使い切り抜いた季節の装飾作品を館内に掲示している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に全職員で理念を唱和し、理念を共有しています	『笑顔』『個別支援』を意識した理念は共用スペースに掲示し、会議でも唱和して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛け地域の方と挨拶したり、職員と一緒に買い物に行っています	散歩や買い物に出かけ地域住民と顔を合わせている。利用者と一緒に回覧板を隣家に届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて資料と共に意見交換しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告し意見交換をしています	2か月ごとに開催している運営推進会議には、行政関係者・地域代表者・家族も参加し、報告・意見交換をしている。誕生日会や災害訓練に、地域代表者から参加の意向も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの注意喚起、連絡等はメールにてもっています。行政へ必要な連絡・確認事項は担当課長が行っている。	行政への連絡等は、法人の担当課長が行っている。介護保険の申請手続きは家族が行い、認定調査の立ち合いは事業所で支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて定期的に学ぶ機会を設け、拘束しないケアに取り組んでいます	玄関と中扉には鍵をかけているが、利用者の動きや意向にあわせ、何時でも一緒に出掛けている。スピーチロックについては、会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて定期的に学ぶ機会を設け、虐待防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で制度についての勉強を継続的に行っていきたいと思えます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明に十分時間を取り、わかりやすく説明しています。改定時には本部より同意書を郵送し不明点等は直接お話をし理解を得られるようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来苑時には積極的に声掛けし、話しやすい環境を作るようにしています	家族には面会時や料金の支払い時以外でも、様子を報告し、要望を聴くようにしている。利用者の要望には根気よく寄り添う努力をしている。職員が利用者から教えてもらうこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望など話しやすい環境を作れるように心がけ職員会議や日々の話の中でも意見交換をしています	管理者は、職員との信頼関係を重視し、どんな意見でも自由に出しあえる環境づくりをしている。職員はレク・会計・居室担当が決まっている。利用者の楽しみや生活のしやすさを話し合い工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度人事考課で評価を行い、面談をおこなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月eラーニングで研修を行い意識向上、知識向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やケアマネ会議が本部で行われている。法人内の他施設と交流する機会が増えるようにしていきたいと思えます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前でも相談出来ることを伝えていきます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様の不安や分からないことを伺い、いつでも相談してほしい事を伝えていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人様、ご家族様の要望に添えるよう必要な支援や説明、紹介が出来るようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は適切なコミュニケーションをとるように心掛けています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談してもらいやすい環境を作っていきたいと思えます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきたことを出来る限り継続していけるように考え支援していきたいと思えます	家族との関係の継続を大切に、面会や電話でのやり取り、外出や外食、お盆の墓参り等、家族と一緒に過ごせる機会が持てるよう支援している。家族の協力を職員は感謝している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、関わりが持ちやすいようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前に退所後も相談にのることを伝えています		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話で希望や意向をくみとり、カンファレンスや日々の申し送りで話し合っています	家族には面会時や電話で要望を確認している。利用者の希望は日々のやり取りの中で受けとめ、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に話し合いの時間を設け把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日々の中で観察し情報を共有しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの介護計画の見直しを行うため、職員会議にて利用者様の状態について話し合いをし反映しています	毎月モニタリングの中で支援の経過と利用者の状況を確認している。3か月ごとに担当者会議を開き、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別に記録し情報を共有しながら職員会議にて介護計画の見直しをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の申し送りや職員会議にて、それぞれの支援の方法を話し合っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	庭に野菜を取りに行ったり、散歩や買い物したりしています。外に出る機会を増やし楽しみを作っていきたいと思います		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の説明にて往診の事も伝えていますが、利用者様、ご家族様の要望に添えるようにしています	受診の方法は契約時に説明し、自由に選択してもらっている。協力医は月に2回往診している。専門医の受診は原則家族としているが、状況に応じ、支援もする。歯科の訪問診療も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問、体調の変化などは24時間対応にて電話で報告、連絡、相談出来ています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は必要な情報は提供しています。入院の様子はご家族様やソーシャルワーカーから話を聞いて現状把握に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の際説明をしています。体調の状態に合わせて早めの話し合いをするようにしています	重度化や終末期の支援について、契約時に説明し、状態に合わせ話し合いをしている。関係機関と連携し、看取り支援をした経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にてマニュアルの再確認をしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合避難訓練を行っています	直近1年では昼夜それぞれ1回づつ、火災想定での総合訓練を実施している。(1回は消防署立会い)ハザードマップ上の指定はない。食糧・備品の備蓄、衛生用品のローリングストックをしている。	火災や地震などの災害時に、スムーズな行動がとれるよう自主訓練を実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要以上の観察をせず、居室に入る際はノックや声掛けし入室の許可をとっています	利用者のプライバシーを重視し、必要以上の観察をしない支援を意識している。排泄介助時も利用者の意向を配慮し、一旦トイレから出る場合もある。異性介助時の声掛けや職員との相性も考慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすいように話し方をしてご自身で選択出来るようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを把握しそれぞれに合うペースを尊重しながら支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にて定期的にヘアカットしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や旬なものを取り入れるようにしています。テーブル拭きや食器の片付けは職員と一緒にしています	週5日は職員が利用者と広告を見ながら希望を取り入れた献立を立て食材を発注している。3食とも手作りの食事を提供している。お茶の時間には、温かい飲み物と冷たい飲み物の希望を聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形状を把握しそれぞれに合うように提供しています。食事量、水分量は職員が確認しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。ご自身で難しい方は職員が声掛けしたり、介助しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い自立支援に繋がるようにしています	定期的な声掛けも含め、利用者の意向に沿った排泄支援を心掛けている。夜間のみポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いものを積極的に献立に取り入れています。毎日の運動は職員と行い習慣になっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺い、無理のないように入浴してもらっています	日曜日以外、基本毎日午後に入浴支援をしている。入浴の予定表はあるが、拒否の場合には翌日以降も声掛けをしている。入浴の準備をしてもらう利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のペースにて居室にて休んでもらっています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専用のファイルにて共有し、薬の変更時には随時申し送りを行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にて好きなこと、趣味を把握し提供できるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り散歩や日光浴など、個別で買物の好きな利用者様と一緒に出掛けています	日常的に散歩出かけたり、テラスでお茶を楽しむ時間を持っている。個別でお菓子や誕生日のケーキなどの買い物に出かけている。家族と外出や外食に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ希望の利用者様は自室にて保管してもらっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話出来るようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に温度計を設置し室温の調節を行っています。共有の空間には季節ごとに飾りを変え季節を味わえるようにしています	共用空間には利用者が裁縫で作ったカレンダーやはさみで切り抜いた飾りを利用した季節の作品が掲示されている。居心地の良さを配慮して、利用者の状況を考慮したテーブルの位置やテレビが楽しめるようソファが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ホールなど自由に行き来出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご自宅で使用した馴染みのあるものをお持ちいただけるように話をしています	家族の思いや協力が感じられる居室になっている。テレビや使い慣れた家具や日用品、家族の歴史や関係を感じさせる色紙や写真など、思い思いの物が揃っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来ることはなるべくしていただいています。安全な環境を作るため、不必要なものは撤去し施設内が広く使えるようにしています		